

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I IV 】
2 実施対象者	実施学校 山元町立山下小学校 対象学年 第1学年 児童数27名 第2学年 児童数34名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (音楽(1年) 生活科(2年) 図工(2年)) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	【1年】 ・様子を思い浮かべ、伸び伸びと歌うことができる。 【2年】 ・世界の給食の比較をきっかけに、食文化や生活様式の違いを知るとともに、世界中にはたくさんの国があり、いろいろな人たちがいることに気付くことができる。 ・地図をもとに世界中からたくさんの人たちが参加していることを知るとともに、オリンピックやパラリンピックをなぜ行っているのか自分なりに考えることができる。 ・オリンピック・パラリンピックで観てみたい、応援したい種目を絵で表現することができる。
5 取組内容	1 1年 音楽 「ようすをおもいうかべよう」(歌唱 ひのまる) (1) 日本の国旗や世界中の国旗について知る。 ①学校生活の中で、日本の国旗を観た経験を発表し合う。 ・入学式や運動会での経験を発表する。 ②世界の国々の国旗を知る。 (2)「ひのまる」を歌詞の意味を考えながら歌う。 (3) 国際交流会でおいでになるゲストティーチャーの母国であるインドネシアのことについて知る。 ①インドネシアはどこにあるのか。 ②インドネシアの国旗はどれか。 2 2年 生活 「世界の給食」 (1) 世界の給食を比べよう。





- ①インターネットなどを活用し，世界の給食を調べる。
- ②気付いたことを発表し合う。
- (2) 文化や生活の違いを調べる。
 - ①挨拶の言葉を知る。
 - ②服装を知る。

3 2年 図工 「オリンピックやパラリンピックで応援した種目を絵に表そう。



- (1) 絵に表す。
 - ①応援したい種目の絵を描く。
 - ②知らせる。

4 2年 生活 「オリンピックやパラリンピックがなぜ行われているのか考える。

- (1) オリンピックやパラリンピックのことについて調べる。
- (2) 調べたことを発表し合う。
- (3) なぜ行われているのか自分なりの考えを書く。

6 主な成果

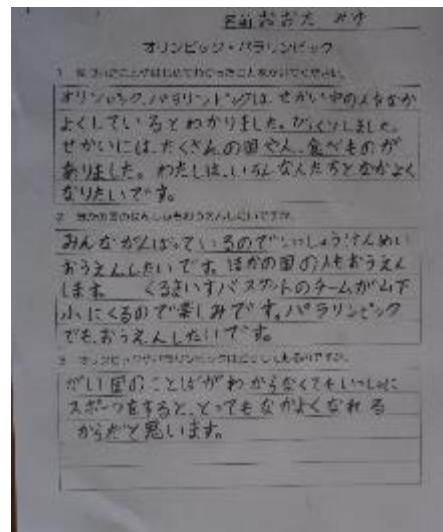
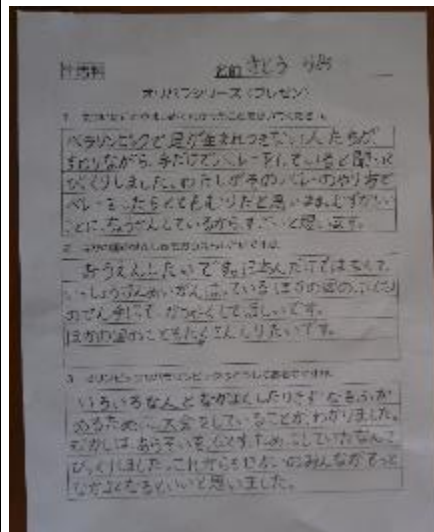
1 1年生の実践より

(1) 意識調査の結果から

- ・2020東京オリンピック・パラリンピックの開催について知っているのかという設問に対して，80%以上の児童が知っているという回答している。
- ・約90%の児童が，興味・関心を持っていることが分かった。

(2) 1年生なりに，オリンピック・パラリンピックに対して興味・関心が高まっているととらえられる。

2 2年生の実践より



	<p>(1) 意識調査の結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックやパラリンピックが東京で開催されることについての理解は、80%を超えている。 ・興味・関心も非常に高く、約90%に達している。 <p>(2) 児童の作文等から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックに関する学習を通して、次のような感想を述べている。 <p>ア オリンピック・パラリンピックによって、世界中の人が仲よくしていることが分かった。自分もいろいろな人たちと仲よくなりたいと思ったこと。</p> <p>イ 外国の言葉が分からなくても、一緒にスポーツをすることでとても仲よくなれること。</p> <p>ウ オリンピック・パラリンピックでは、日本の選手だけではなく、一生懸命頑張っている他の国の選手にも活躍してほしいと思ったこと。</p> <p>エ オリンピックやパラリンピックを通して絆を深めることができるということが分かったこと。</p> <p>以上のことから、オリンピック・パラリンピック教育を通して、他者を思いやり相手の立場を尊重しようとする心も育ってきているのではないかと考える。さらに、国際理解や異文化に対する理解も高まってきていると考えられる。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視聴覚教材の積極的活用や児童による主体的な調べ活動を取り入れることで、学習に対する興味・関心が高まった。 ○ オリンピック・パラリンピックそのものに対する学習と、それを通じた学習を効果的に組み合わせた単元計画を立てた。 ○ 意識調査を実施し、児童の意識の変容を客観的に把握し、指導改善に役立てた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な学習を展開するために有効な教材の開発や選択はどうあれば良いか学校全体で吟味する必要がある。 ○ 児童の作品等を次年度に引継ぎ、児童の意識の継続と向上を目指していく必要がある。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の成果と課題を整理し、次年度に引継ぎながら、さらに実践を図る予定である。